

メキシコ金融政策（2021年9月）

3会合連続で0.25%ポイントの利上げ

2021年10月1日

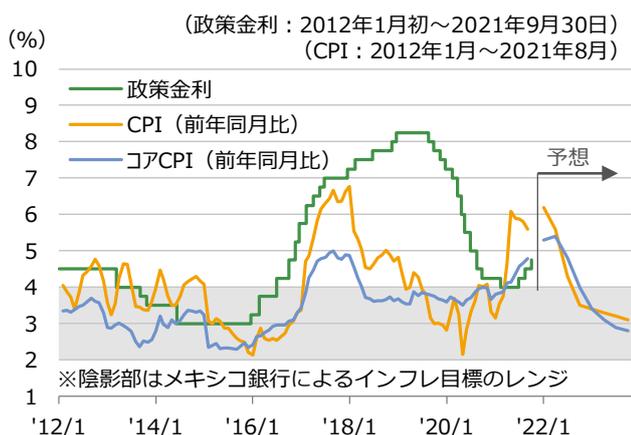
インフレに影響を与える要因を注視しながら利上げを続ける見込み

メキシコ銀行（中央銀行）は9月30日（現地）に金融政策決定会合を開催し、市場予想通り政策金利を4.50%から4.75%に引き上げることを決定しました。3会合連続の利上げです。政策委員5名の内、エスキベル氏のみが据え置きを主張し、残り4名が利上げを支持しました。過去2回は据え置きを主張していたボルハ氏が利上げ支持に移りました。

声明文では、インフレ率を上振れさせている要因は一時的なものと見込まれるが、その多様性、程度、および時間軸の長期化が、今後の価格形成プロセスやインフレ期待に影響を及ぼす可能性があるとして指摘しています。実際、CPI（消費者物価指数）の予想は前回から全般的に上方修正され、メキシコ銀行が設定するインフレ目標に回帰する時期も後ずれしており、インフレへの警戒感は一層高まっているとみられます。こうした状況を考慮し、予測期間内（2023年7-9月期まで）にインフレ率を目標レンジの中心である3%に収れんさせるためには金融政策を引き締める必要があると、利上げに至った背景を説明しています。

インフレ率を上昇させているのは、サプライチェーンの混乱や農畜産品など主に供給側の要因ですが、上述の理由から今後も利上げを続ける可能性が高いと考えられます。また、メキシコ銀行はインフレ見通しの上方リスクとして「通貨安」にも言及しています。直近では米国の金融政策正常化などが意識され、メキシコ・ペソが対米ドルでやや下落していますが、メキシコ銀行の為替レートを注視しながら政策運営にあたる姿勢は、通貨の安定につながると期待されます。

メキシコの政策金利とCPI



※CPIの予想は2021年10-12月期～2023年7-9期
(2021年9月時点のメキシコ銀行による予想)

(出所) メキシコ銀行、ブルームバーグ

メキシコ・ペソの対円・対米ドルレート



(出所) ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。